大 善 寺 古 墳 群

―― 2号墳・8号墳試掘調査報告書 ――

令和4年12月

郡 山 市 教 育 委 員 会

序　　文

郡山市は、福島県のほぼ中央に位置し、豊かな自然に恵まれ、その地理的特徴から、原始・古代より交通の結節点として東西南北から、さまざまな地域の文化が集まり、それらを礎として多様な文化が形成されてきました。

文化財は、地域の歴史や文化を理解する上で欠くことのできないものであり、地域文化の向上・発展の基礎となるものであります。その中でも、埋蔵文化財は大地に刻まれた地域の歴史そのものです。

郡山市教育委員会では、本市の歴史や文化を解明する貴重な財産である埋蔵文化財を後世に遺し、継承していくことが現代に生きる私たちの大きな責務であるとの認識のもと、埋蔵文化財の保存と活用に努めているところであります。

大善寺古墳群は、国指定史跡大安場古墳の南側に位置する古墳時代前期から後期にかけて築かれた古墳群であり、石棺や埴輪が発見されていることで知られています。

本書は、これまでの試掘調査の成果を周知し、活用できるように後世に残す記録としてまとめたものであります。今後、地域の歴史解明の基礎資料や研究資料として、広く皆様に活用していただきますとともに、埋蔵文化財の保存と活用について御理解をなお一層深めていただければ幸いに存じます。

結びに、本書作成にあたり、御尽力を賜りました関係機関、関係者各位に対し、敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げ序文といたします。

令和４年12月

福島県郡山市教育委員会
教育長　小　野　義　明

調　査　要　項

遺　跡　名　大善寺古墳群
所　在　地　福島県郡山市田村町大善寺字上野・上石切場
調 査 期 間　２号墳：平成26年１月18日～平成26年１月31日
　　８号墳：令和４年４月11日～令和４年４月13日
調 査 面 積　２号墳：20.9㎡
　　８号墳：30.8㎡
調査委託者　郡山市
調査主体者　郡山市教育委員会
調査担当者　公益財団法人郡山市文化・学び振興公社
調　査　員　２号墳：押山雄三・日下政勝
　　８号墳：垣内和孝・石澤夏巳

例　　言

１．本書は、福島県郡山市田村町大善寺に所在する大善寺古墳群の試掘調査報告書である。
２．試掘調査および整理報告に関わるすべての費用は郡山市が負担した。
３．本書は、公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センターが編集し、郡山市教育委員会が発行した。
４．本書の執筆は、１・３・４を垣内、２を日下が行なった。
５．遺構図の作成は垣内・日下・石澤・福岡道子・安藤未希・加藤志津佳・吉成静江が行なった。
６．遺物図の作成は垣内・今泉淳子が行なった。
７．写真の撮影は、遺構を垣内・日下、遺物を垣内が行なった。
８．本書第１図は、基図として国土地理院発行1/25,000地形図「郡山」を使用した。
９．本書第２図・第３図は、基図として1/2,500県中都市計画図を使用した。
10．座標値は、世界測地系平面直角座標第Ⅸ系を使用した。
11．本書の年表記は和暦を原則とするが、調査・研究史や参考文献の発行年では西暦を使用した。
12．試掘調査に関わる記録・資料および出土遺物は郡山市教育委員会の保管である。
13．試掘調査および整理報告にあたり、以下の機関・個人の協力・助言をいただいた。
大安場史跡公園・大安場史跡公園ボランティア・神明神社
大栗行貴・柳沼賢治・柳沼孝一・柳沼孝之（敬称略・順不同）

目　　次

序　　文

調査要項

例　　言

目　　次

１．位置と分布…… 1

２．２号墳…… 6

３．８号墳…… 10

４．まとめ…… 13

参考文献…… 14

写真図版…… 15

報告書抄録…… 20

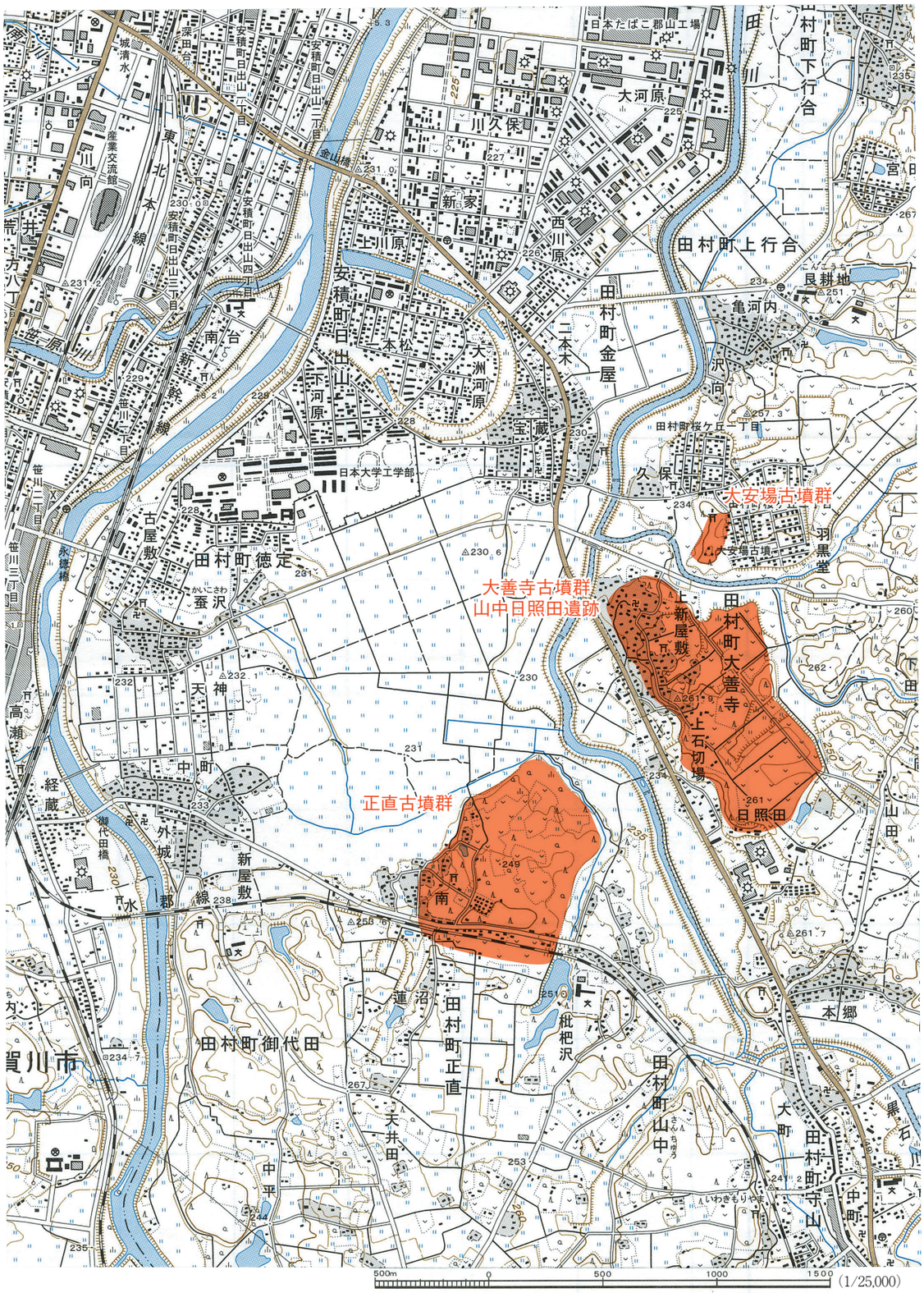
１．位置と分布

郡山市田村町大善寺に所在する大善寺古墳群は、谷田川東岸の丘陵上に立地する古墳群である。古墳時代のほぼ全時期に継続する集落の山中日照田遺跡と複合する。同遺跡の発掘調査では、方墳３基・円墳１基・方形周溝墓５基・円形周溝４基がみつかった。このうち方形周溝墓・円形周溝は墳丘の失われた古墳と評価すべき存在で、方墳・方形周溝墓には前期のものが多い。谷田川下流域には、正直古墳群など他にも古墳時代の遺跡が濃密に分布し、周辺域は古墳時代の中核的な地域と評価できる。

大善寺古墳群の全体像は判然としないが、墳丘が残る古墳や埴輪が採集できる地点が広い範囲に認められる。1997 年に郡山市域の古墳時代遺跡を整理した柳沼賢治氏は、大善寺古墳群の８基の古墳の位置を図示した。ただし、埴輪の採集できる４基を１～４号墳とする一方で、その他の４基には番号を付けなかった。柳沼氏はその後、2019 年に埴輪の採集地点を２ヵ所追加して６ヵ所とした上で、古墳であることが確実な２・３号墳以外の呼称を「地点」と改めた。柳沼氏の成果と前後する 2016 年、大安場史跡公園の広報誌『まる さんかく しかく』第 28 号が大善寺地区の古墳を特集した。大善寺古墳群のうち、存在を把握できるのは方墳８基・長方墳１基・円墳８基・帆立貝形古墳１基の 24 基とし、そのうちの２・３・６・７・８号墳の位置を図示した。24 基には、山中日照田遺跡の発掘調査でみつかった方墳・円墳・方形周溝墓・円形周溝を含む。また、『郡山市史 第８巻』に解説の載る「大善寺石切場古墳」を７号墳、『福島県史 第６巻』などで紹介された鉄鏃・骨鏃等の出土した古墳を８号墳とした。

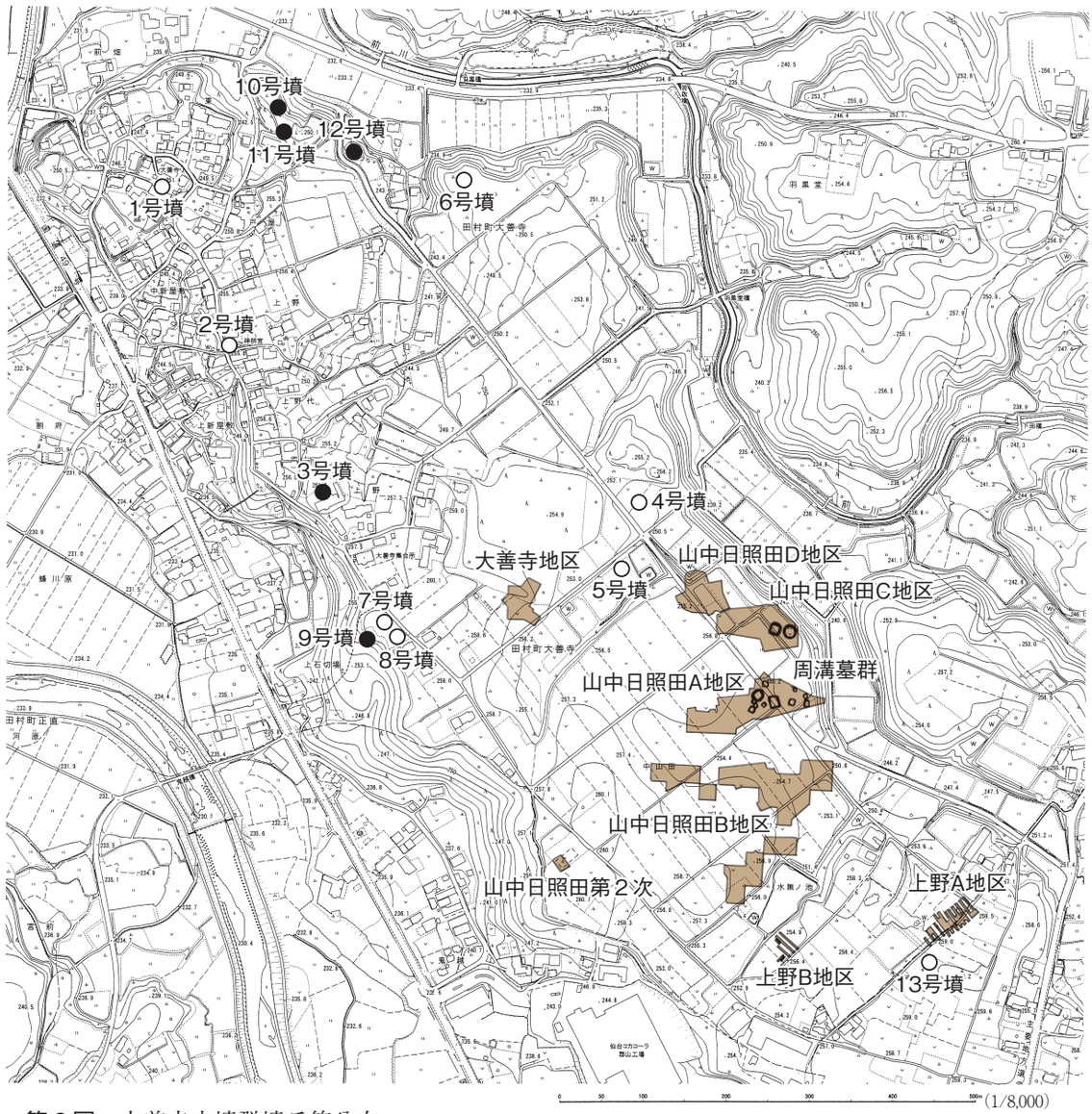
1964 年に刊行された『福島県史 第６巻』は、田村町大善寺で調査された箱形石棺の図面と写真、その出土遺物である刀子・鉄鏃・骨鏃の写真を掲載する。一方で、1973 年刊行の『郡山市史 第８巻』は箱形石棺と鉄鏃・骨鏃の写真を掲載するとともに、「大善寺石切場古墳」の項目を立てて田村町大善寺字上石切場で 1972 年３月２日・３日に箱形石棺を調査し、人骨の出土と鉄錆痕の検出があったと解説する。掲載された写真を見る限り、『福島県史 第６巻』と『郡山市史 第８巻』の鉄鏃・骨鏃が同一物であることは明らかだが、前書の刊行年と後書の解説にある調査年とは両立し得ない。その齟齬を解消するには何らかの解釈が必要である。例えば、①両書掲載の箱形石棺は別物で最低でも２基の箱形石棺が存在した、②両書掲載の箱形石棺は同一物だが『郡山市史 第８巻』の 1972 年は再調査の年次を指す、などが考えられる。『まる さんかく しかく』第 28 号は①の解釈となる。なお、1973 年刊行の『福島県考古学年報２』は、調査担当者である田中正能氏による『郡山市史 第８巻』と同内容の報告を掲載する。

以上の諸点を踏まえ、大善寺古墳群の古墳分布を参考地も含めて整理したのが第２図である。７・８号墳の間には箱形石棺石材の集積があるが、両古墳の北西に近接する畠地にもまた別の石材集積があり、図示した以外にも削平された古墳が存在した可能性は高い。一方で、７・８号墳の南西に隣接する山林内には９号墳とした円墳がある。また、古墳群内北側の墓地に隣接して、長方形もしくは長円形の墳丘があり、10 号墳とした。さらにその南側に隣接する墓地敷地内には、周囲より数 10㎝ほど高くなった範囲がある。削平を免れた墳丘基底部の可能性を想定し、11 号墳とした。丘陵の北端裾付近には、頂部に古い墓地がある長方形もしくは長円形の小丘があり、12 号墳とした。ただし、11・12 号墳は古墳としての根拠は弱く、あくまでも参考地である。

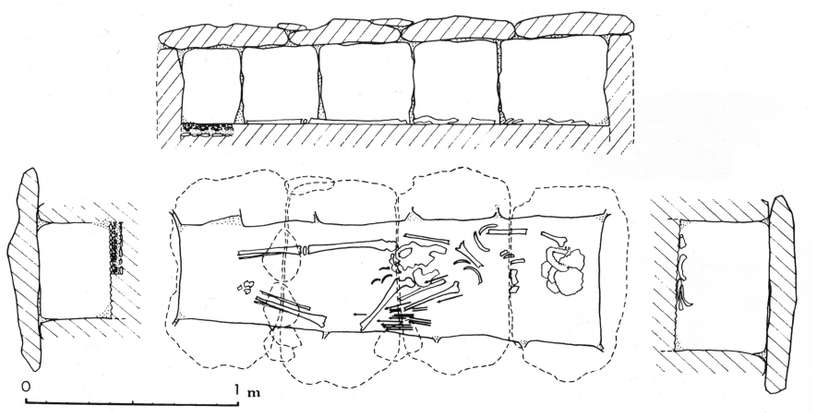


第１図　大善寺古墳群と関連遺跡の位置

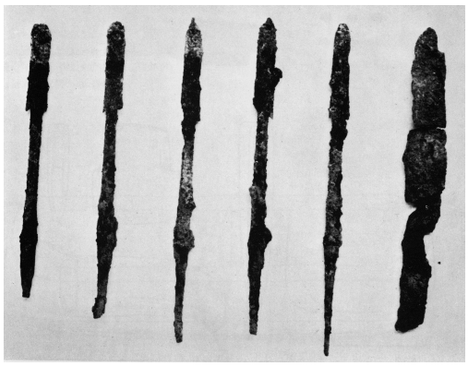
本書	柳沼賢治		大安場史跡公園	現況等	備考
	(1997)	(2019)	(2016)		
1号墳	1号墳	1地点		大善寺境内	埴輪採集
＊2号墳	2号墳	2号墳(神明神社)	2号墳	神明神社境内	埴輪出土
3号墳	3号墳	3号墳(弘法壇)	3号墳(弘法壇)	草地・三角点	一部墳丘残存 東京国立博物館蔵円筒埴輪出土
4号墳	4号墳	4地点(峰笠)		農地	埴輪採集
5号墳		5地点(冠者)		農地	埴輪採集
6号墳		6地点	6号墳(狐壇)	農地	埴輪採集
7号墳	○		7号墳	農地	
＊8号墳			8号墳	農地	箱形石棺・刀子・鉄鏃・骨鏃・人骨等出土
9号墳	○			山林	通称「カブトヅカ」墳丘残存 直径約20m
10号墳	○			墓地隣接地	墳丘（長方形・長円形）残存 約10×17m
11号墳				墓地	一部墳丘残存ヵ 約10×11m
12号墳				頂部墓地	墳丘（長方形・長円形）残存ヵ 約21×28m
13号墳	○			農地	

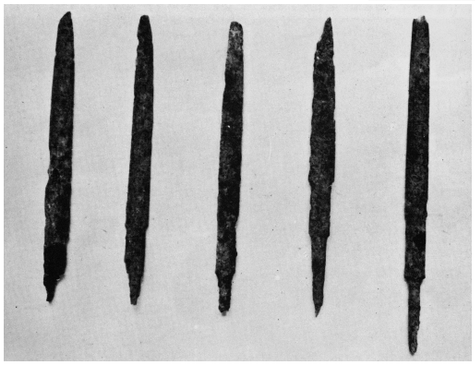


第２図　大善寺古墳群墳丘等分布









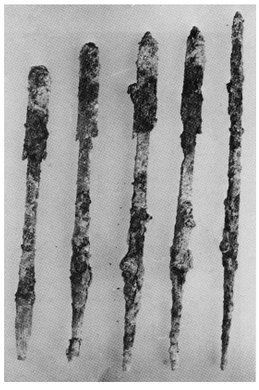
『福島県史 第６巻』掲載図・写真













『郡山市史 第８巻』掲載写真


2号墳
神明宮
8号墳
大善寺集会所
新屋敷
上野
上野代
上新屋敷
上野
上石切場
245.4
256.4
255.2
243.4
241.9
255.8
244.5
250.2
256.6
249.0
249.7
255.2
256.0
261.9
257.3
259.0
236.5
257.5
235.1
233.4
237.2
260.1
255.4
260.3
258.6
239.0
235.
253.1
242.7
259.0
235.1
0
50
100
200
(1/2,500)

第３図　試堀調査地点

２．２号墳

［遺構］ 埴輪の採集されることが知られていた２号墳の現状を把握するため、平成 26 年１月 18 日～ 31 日に試掘調査を実施した。２号墳の比定地である大善寺字上野地内の神明宮境内（東西方向に長い長方形）にトレンチ１本を設定した。トレンチの掘削にあたっては遺構に影響を及ぼさないように配慮し、既存の素掘り排水溝（境内北端部）を人力で拡幅した。トレンチの規模は、西に隣接する市道（U 字溝天端）から、長さ 12.6 m、幅 1.4 mで、市道から 4.6 mの地点で南方に 1.9 m、幅２mの拡幅部を設けた。トレンチ内の堆積土は、ＬⅠ＝黄褐色土（層厚 12 ～ 43㎝）、ＬⅡ＝黄色ローム（地山）の２層があり、遺構の有無はＬⅡ上面で確認した。

発見した遺構は溝跡１条があり、幅約５～６m、西側にゆるやかな弧状を呈し、南北にトレンチを横断している。溝跡の堆積土は、ℓ１＝暗淡褐色土、ℓ２＝暗黄褐色土（淡黒色土混入、土器多い）、ℓ３＝淡黒色土（土器多い・火山灰）、ℓ４＝黄褐色土（淡黒色土と黄色土ブロック多い・土器）、ℓ５＝暗黄褐色土（黄色土ブロック多い）の５層があり、土層断面から自然堆積と判断した。平面形と出土遺物から、古墳の周溝である可能性が高く、境内の南西部分に墳丘が遺存すると考えられる。

［遺物］ 遺物は、主に溝跡から 238 点（細片含まず）が出土した。図示した 19 点のうち、１～ 17 が円筒埴輪である。

１は、溝跡内西側の地山直上から一括出土した。色調は概ね橙褐色を呈し、胎土はやや緻密で石英粒が散見される。復元寸法は残存高約 31㎝、最大径約 36㎝を測り、下位を欠くものの、胴部から口縁部までやや開きながらほぼ直線的に至る外形を示す。口縁端部は平らに成型され外反しない。外面には台形の断面形状のタガ（突帯）があり、口縁下約 1.6㎝から約 10㎝強の間隔で３条が外周し、上から２・３段目にはやや横長の円形のスカシ（孔）が開けられる。残存状態の観察から下位に１段があった可能性がある。調整は縦ハケメ後に継続的な横ハケメが施され、タガの上下は横ナデされる。内面の調整は横ハケメが優勢である。焼成は堅調で内外面にいわゆる黒斑が観察できないため、窖窯焼成とみられる。

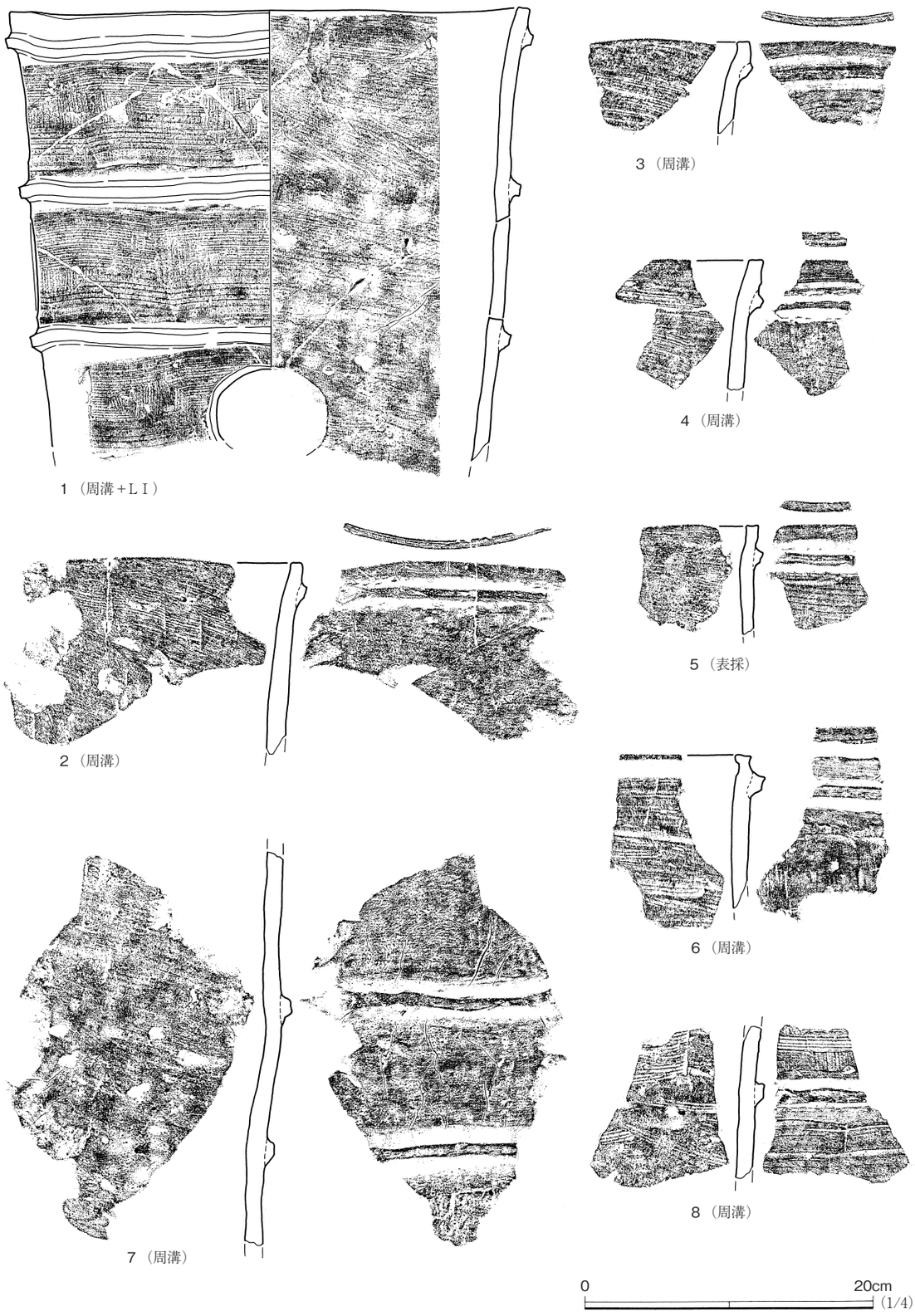
２～６は、口縁部～胴部が遺存する資料である。５（表採）を除いて溝跡から出土した。色調は２・３が橙褐色、４～６は暗橙褐色を呈し、黒斑はみられない。器形は、平らな口縁部から直ぐ下に台形断面のタガが１条残存している。外面調整は２・５に横ハケメが観察できるが１ほどには顕著でなく、横ナデ調整が施される。内面はいずれも横ハケメが優勢である。

７～ 14 はタガが遺存する胴部片である。このうち、13 は口縁端部を欠くものの、胴部から口縁部にかけて丸く外反する形状である。色調は、すべて橙褐色を呈し、黒斑は看取できない。タガはいずれも台形断面で、７のみに２条（約 10㎝間隔）が残存する。外面調整は８・10 に横ハケメが観察できるほかは横ナデ調整が施される。15 は円筒状であるが、上記に比べて小径である。

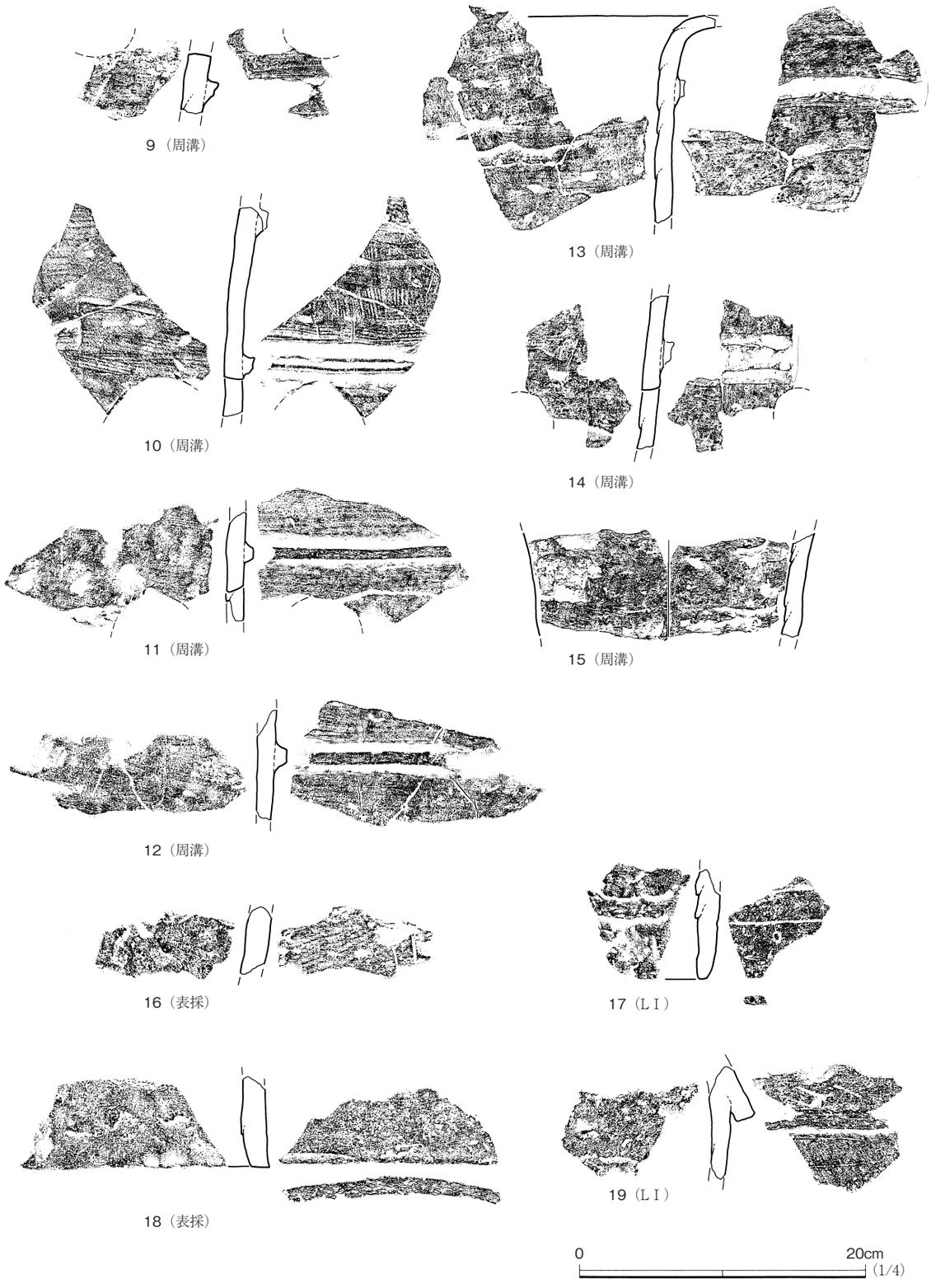
18・19 は円筒埴輪として判別できなかった資料である。色調はいずれも橙褐色を呈する。18 は端部が平らに成型された大径の底部片である。残存高約 5.5㎝でタガは観察できない。19 は円筒埴輪片に比べると扁平で、端部が折り返される形状の資料である。形象埴輪の可能性が考えられる。


A
A′
256.0m
撹乱
木根
遺物出土状況
0
2m
(1/60)
1 暗淡褐色土（粘性弱、しまり弱、炭化物粒・黄色土粒を微量含む）
2 暗黄褐色土（粘性ややあり、しまり弱、淡黒色土・黄色土ブロックを少量含む）
3 淡黒色土（粘性やや弱、しまり弱、遺物多量混入、炭化物粒・火山灰含む）
4 黄褐色土（粘性あり、しまりやや強、黒色土と黄色土ブロックの混合土、遺物混入）
5 暗黄褐色土（粘性ややあり、しまりやや弱、ℓ2と黄色土ブロックの混合土、遺物・炭化物粒少量含む）
LⅠ 表土
LⅡ 黄色ローム

第４図　２号墳



第５図　２号墳出土遺物（１）



第６図　２号墳出土遺物（２）

３．８号墳

[遺構] 畠の耕作に際し、古墳の主体部を構成する石材１点が抜き取られたとの情報が寄せられたため、現状の確認を目的として令和４年４月 11 ～ 13 日に試掘調査を実施した。１で触れたように、８号墳は『福島県史 第６巻』『郡山市史 第８巻』に写真が掲載された骨鏃等が出土した古墳の可能性がある。

石材の抜取穴周辺に、まず任意に１号トレンチを設定して遺構の有無や内容の把握を試みた。その結果、墓坑の一部がみつかったため、全体のプランを把握するために１号トレンチを拡張した。墓坑の平面は長方形を基調とし、規模は長軸約 3.1 m、短軸約 1.4 m、堆積土は多量の粘土ブロックを含む暗黄褐色土であった。石棺を構成する石材は、小さなもの以外は取り除かれており、今回抜き取られた石材が主要なものでは最後のようである。墓坑堆積土の截ち割り調査は実施しなかったが、石材の抜取穴を観察する限りでは、埋土の厚さは 20㎝以上ありそうである。この埋土上に、板状の石材を組み合わせた箱形石棺が据えられていたと思われる。墓坑の西側に隣接して板石材の集積がある。

この墓坑と対応する周溝を確認するため、墓坑の軸線を基準にして２本のトレンチを設定した。墓坑の主軸と直交する３号トレンチでは、墓坑から約 2.8 m離れた場所に周溝の堆積土とみられる黒褐色土層がみつかった。その幅は３～ 3.5 mである。周溝堆積土の掘り込み調査は行なわなかった。墓坑の主軸と平行する２号トレンチからは、周溝の存在をうかがわせる様相は認められなかった。よって８号墳の周溝は、墓坑の小口方向のうち、斜面の下位にあたる南西側では周溝が途切れていたことになる。円形基調の墳形を前提とすれば、Ｃ字状・Ｕ字状などの形状の周溝が想定できる。墓坑を墳丘の中心と仮定し、３号トレンチで確認した周溝の位置を反対側に折り返すと、７m前後の墳丘規模が予想できる。

主体部墓坑および周溝の現状を確認した後、各トレンチを埋め戻して調査を終了した。今回の調査では、８号墳が骨鏃等が出土した古墳であるか否か、確かな情報を得ることはできなかった。

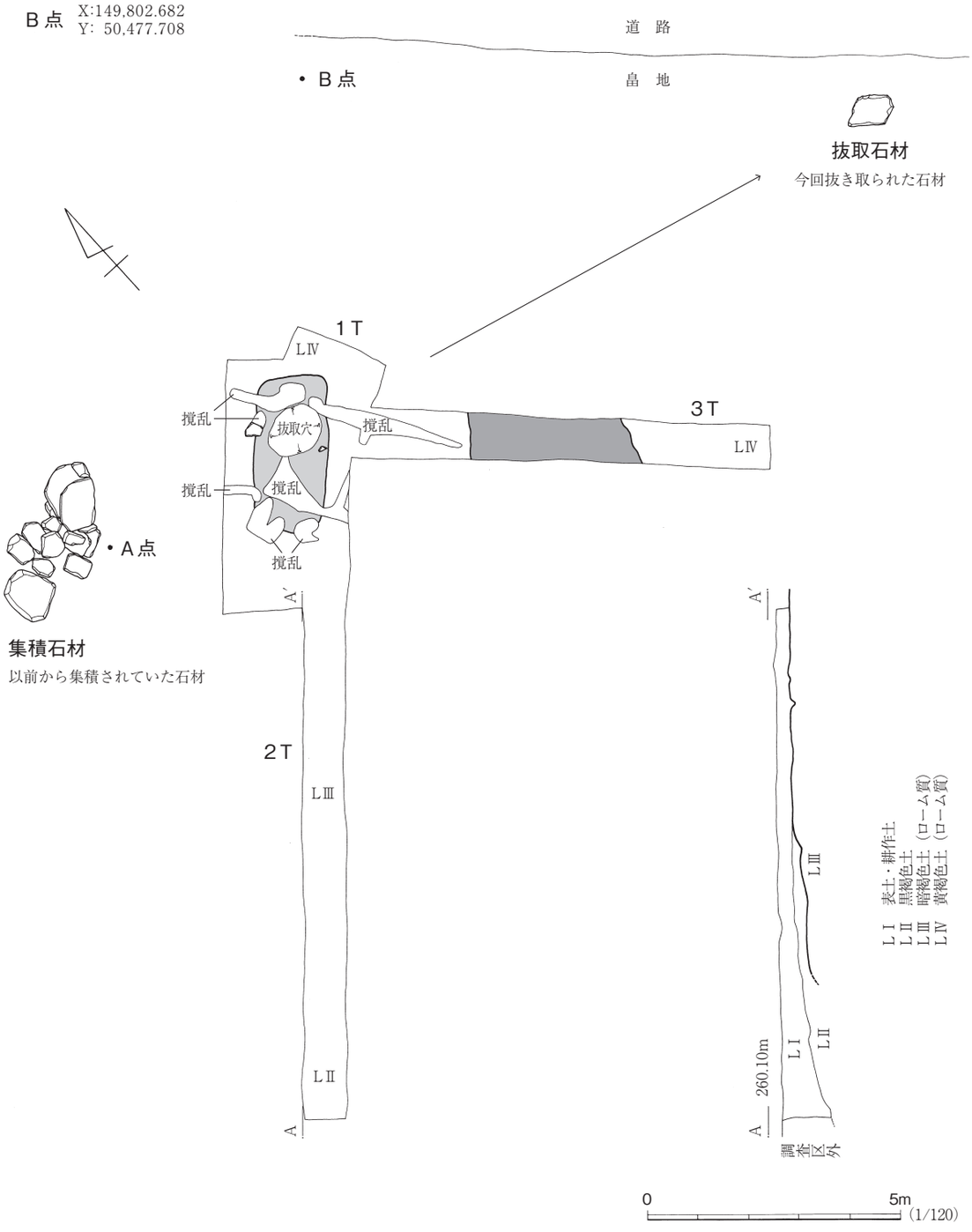
[遺物] 表土・耕作土のＬⅠから、縄文土器の破片４点、土師器の破片２点、須恵器の破片１点と叩石１点が出土した。土器類はいずれも細片である。第９図 20 に叩石を図示した。材質は溶結凝灰岩とみられる。山中日照田遺跡第２次調査で縄文時代前期末葉の掘立柱建物がみつかっており、８号墳の周辺にも縄文時代集落の存在が想定できる。

[大善寺出土骨鏃] ４頁に示したように、大善寺所在の古墳の箱形石棺からは、刀子・鉄鏃・骨鏃・人骨が出土した。確定はできないものの、当該古墳は８号墳の可能性がある。これらの遺物のうち、『福島県史 第６巻』『郡山市史 第８巻』掲載の骨鏃５点と、これと一緒に収納されていた骨鏃細片１点について、実測と写真撮影を行なった。骨鏃細片は両書に見えない。素材はニホンジカの中手骨もしくは中足骨とみられる。長頸鏃を模倣した形状で、やや不明確な個体もあるが、体部に左右対称に２ヵ所の切り込みを入れた鏃身・被篦・茎の３部構成となる。第９図 21・22・23・25 には、被篦部を中心に褐色もしくは黒色の付着物があり、骨鏃を矢柄に装着する際に用いた漆やアスファルトと考えられる。裏側に髄腔壁の残るものや、素材の形状に起因するとみられる反りの認められる個体が多い。26 として示した破片は、福島県立博物館が所蔵する大善寺出土とされる 14 点の骨鏃のうちの１点と接合する。同館所蔵のこの骨鏃は、鏃身の中ほどから下半部が残存する長頸型の破片である。

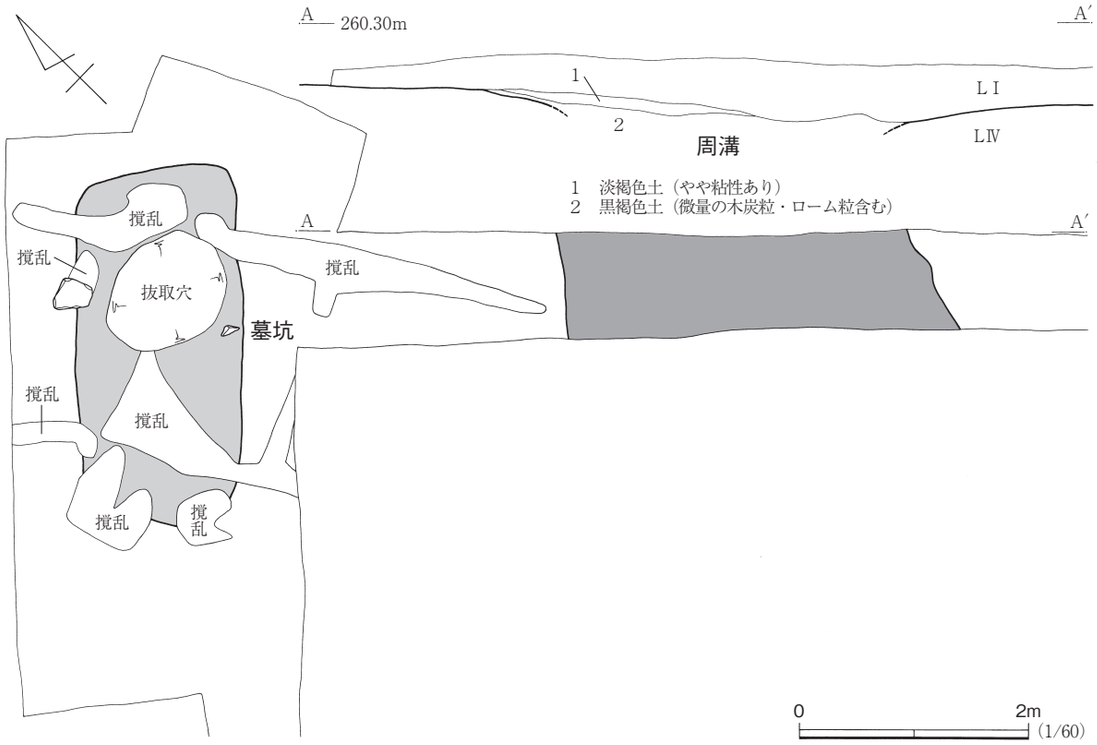
測量用基準点座標値

A点　X:149,798.475
　　Y: 50,468.643

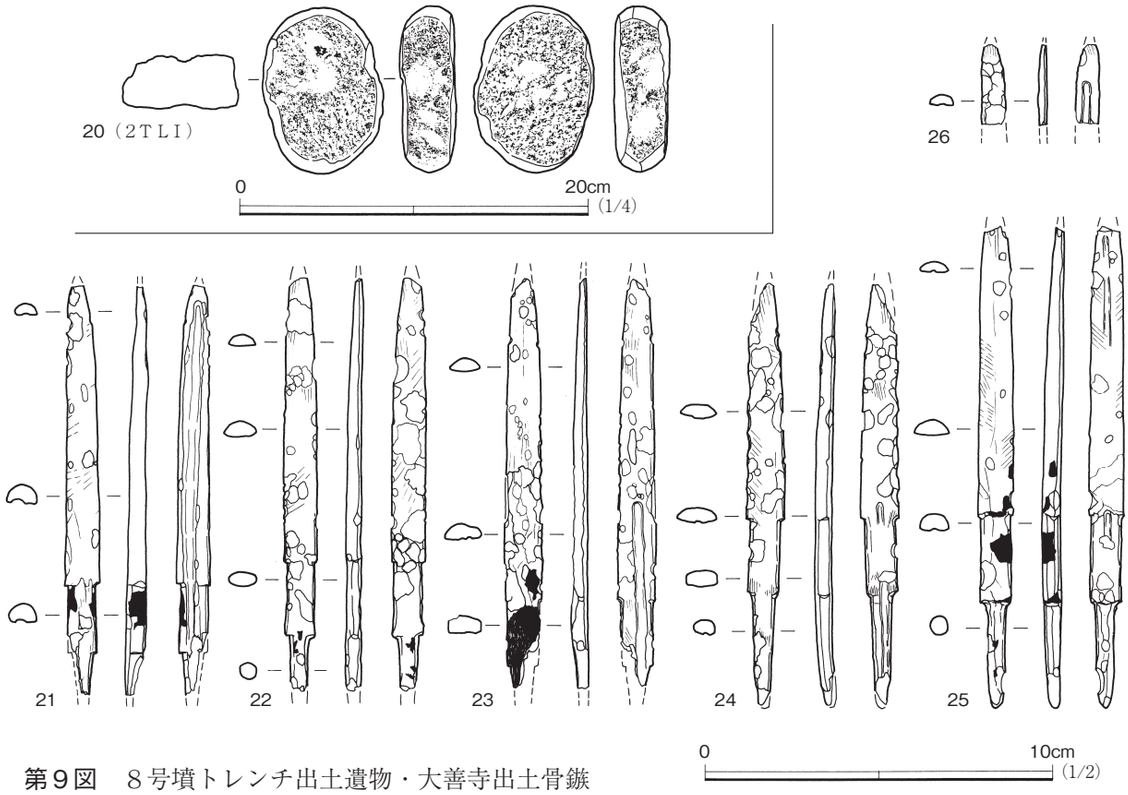
B点　X:149,802.682
　　Y: 50,477.708



第７図　８号墳



第８図　８号墳墓坑・周溝



第９図　８号墳トレンチ出土遺物・大善寺出土骨鏃

４．まとめ

最後に、大善寺古墳群の中での２号墳と８号墳の位置付けを確認する。そしてその上で、同古墳群の構造に触れてまとめとする。

２号墳の周溝は幅が約６ｍであり、それなりの墳丘規模が想定できる。すでに一部が紹介されているように、埴輪には円筒埴輪と形象埴輪があり、５世紀後葉の年代が考えられている。円筒埴輪には、口縁部直下に突帯がめぐる４条４段構成と、口縁部が外反するタイプとの２種がある。前者は２次調整の一時停止するヨコハケが認められ、後者はナデ調整が顕著である。この時期の埴輪を持つ古墳は帆立貝形古墳が少なくなく、２号墳も同様の可能性がある。大善寺古墳群中の有力古墳と評価できる。

８号墳の墳丘規模は径約７ｍと予想できる。主体部は墓坑基底部のみの残存だが、板石材の存在から箱形石棺と考えられる。当地域で横穴式石室が一般的となるのは６世紀後半であり、それよりは古い時期の築造となる。かつて骨鏃等の出土した古墳が８号墳であったかは確証を得ないが、その可能性は否定できない。いずれにしても、すでに墳丘が削平された小規模な古墳が周辺には複数存在したようであり、それら近接する古墳の築造時期は大きくは異ならないと考えられる。古墳時代の骨鏃は、５世紀までは比較的忠実に鉄鏃の形態を模倣する一方で、６～７世紀には独自の形態になる。大善寺古墳群出土の当該骨鏃は、共伴する長頸鉄鏃の年代観によって６世紀前半から中頃と評価されている。

２号墳と８号墳は、墳丘規模の大小や埴輪の有無にみられるように、帰属する階層は異なると考えられる。築造時期は２号墳が５世紀後葉、８号墳は６世紀前半から中頃の可能性がある。そのため両古墳は直接的な階層関係にあったわけではないものの、大善寺古墳群が有力古墳と小型古墳により構成された階層構造を有したことが考えられる。

直接的な階層関係において、８号墳の上位に位置付けられそうな古墳に、近接する９号墳がある。９号墳は、現状では円墳のように見え、規模は略測で直径約 20 ｍである。その立地は丘陵の西側縁辺にあたり、谷田川流域の低地から視認しやすい場所である。発掘調査は実施されておらず、今のところ採集遺物もない。そのため確かな築造時期は不明である。しかし、規模の大きい９号墳と小規模な７・８号墳などが近接し、同一のグループを形成した可能性がある。

山中日照田遺跡第１次調査Ａ地区でみつかった前期の方形周溝墓群にも大小の規模が混在する。しかしその差は小さく､同質性の方が高いと思われる。これらの方形周溝墓の階層上位に位置付けるべきは、前期後半に築造された大安場古墳であろう。同古墳は全長約 83 ｍの前方後方墳で、大善寺古墳群とは谷を隔てた北側の丘陵上にある。その立地は、あたかも山中日照田遺跡を見下ろすかのようである。

大善寺古墳群は、時期によって古墳の築造場所を変えながら継続したようである。前期には山中日照田遺跡第１次調査Ａ地区周辺、５世紀後葉頃の中期後半には埴輪の採集できる丘陵上の北側に有力古墳の存在が想定でき、６世紀前半頃の後期前半には７～９号墳周辺に移る。前期後半には有力古墳の大安場古墳が大善寺古墳群の範囲外に築造されたが、中期後半には古墳群内に有力古墳が造られるようになる。中期後半の小型古墳の存在は確かめられていないものの、続く後期前半には有力古墳と小型古墳とが近在していたようであり、これと同様の状況が想定できる。

参考文献

大栗行貴「阿武隈川流域の埴輪」平成 25 ～ 27 年度科学研究費補助金研究成果報告書『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』福島大学行政政策学類 2015 年

大安場史跡公園編『まる さんかく しかく』第 28 号 同 2016 年

郡山市編『郡山市史 第８巻』同 1973 年

郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団編『山中日照田遺跡 第２次調査報告』郡山市教育委員会 1999 年

高松俊雄編『郡山東部Ⅱ』郡山市教育委員会 1982 年

田中正能「個別解説 大善寺石切場古墳」郡山市編『郡山市史 第８巻』同 1973 年

田中正能「大善寺石切場古墳」『福島県考古学年報２』福島県考古学会 1973 年

福島県編『福島県史 第６巻』同 1964 年

福島県立博物館編『東国のはにわ』同 1988 年

藤沢敦「古墳時代の骨角器」北條芳隆・禰宜田佳生編『考古資料大観 第９巻』小学館 2002 年

宮城県教育委員会編『山王遺跡八幡地区の調査２』同 2001 年

宮城県教育委員会編『山王遺跡Ⅶ』同 2018 年

柳沼賢治「歴史的環境」郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団編『大安場古墳群 第１次発掘調査報告』郡山市教育委員会 1997 年

柳沼賢治「福島県中通り地域の古墳と集落」平成 28 ～ 30 年度科学研究費補助金研究成果報告書『古墳分布北縁地域における地域間交流解明のための実証的研究』福島大学行政政策学類 2019 年

横須賀倫達「特異な副葬品から大化前代の阿武隈川流域を考える」平成 25 ～ 27 年度科学研究費補助金研究成果報告書『阿武隈川流域における古墳時代首長層の動向把握のための基礎的研究』福島大学行政政策学類 2015 年

横須賀倫達・奥山誠義「勿来金冠塚古墳出土遺物の調査Ⅱ」『福島県立博物館紀要』第 20 号 2006 年



大善寺古墳群北西周辺



大善寺古墳群南西周辺



トレンチ全景



周溝断面



周溝遺物出土状況



周溝遺物出土状況



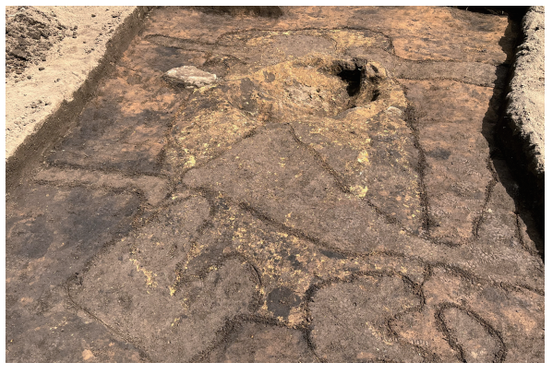
周溝遺物出土状況



2号墳出土遺物



主体部・周溝確認状況



主体部確認状況



主体部確認状況



周溝確認状況



主体部確認地点隣接集積石材



8号墳トレンチ出土遺物・大善寺出土骨鏃

報 告 書 抄 録

書　　名	大善寺古墳群 ２号墳・８号墳試掘調査報告書
編 著 者	垣内和孝　日下政勝
編 集 機 関	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター
所 在 地	福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番
発 行 機 関	郡山市教育委員会
所 在 地	福島県郡山市朝日一丁目23番７号
発 行 年 月 日	令和４年（2022）12月23日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大善寺古墳群（２号墳）	福島県郡山市田村町大善寺字上野	2036	0627	37°21′6″	140°24′2″	20140118～20140131	20.9	内容確認
大善寺古墳群（８号墳）	福島県郡山市田村町大善寺字上石切場	2036	0627	37°20′55″	140°24′10″	20220411～20220413	30.8	内容確認

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大善寺古墳群（２号墳）	古墳	古墳時代中期	周溝	円筒埴輪	
大善寺古墳群（８号墳）	古墳	古墳時代後期	主体部墓坑・周溝		
要　　約	古墳時代中期後半築造の大善寺２号墳の周溝と、後期前半築造の大善寺８号墳の主体部墓坑・周溝を確認。				

大 善 寺 古 墳 群

―― ２号墳・８号墳試掘調査報告書 ――

令和４年（2022）12月23日

編　集　公益財団法人郡山市文化・学び振興公社
文化財調査研究センター
〒963-0541　福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番地

発　行　郡山市教育委員会
〒963-8601　福島県郡山市朝日一丁目23番７号

印　刷　不二石橋印刷株式会社
〒963-0724　福島県郡山市田村町上行合字西川原９－２